DC164
8
78W11590
X
複写

シセH82
國立國會圖書館藏書 53.3.24
DC164 8
-103-

青島ニ於ケル物價動向並主要商品取引[illegible]

一、本篇ハ「青島經濟概況調査」報告ノ中心ヲ爲ス「最近[illegible]商品別物價變動ノ分析」ヲ拔萃セルモノデアル

二、尚右「青島經濟概況調査」ハ調査者ガ資料蒐集又ハ聽取ニ依リ取纏メタモノデアルカラ、各章獨立ノ題目ニ依ツテ書カレタモノト看テヨカラウ。因ニ其ノ主ナル項目ヲ示セバ次ノ如シ

第一編　物價情勢

卸賣物價ノ動向、商品別價格變動ノ分析

青島現物市場ノ開設　物價變動ノ基調

第二編　金融情勢

金融機關ノ現狀、金融情勢ノ分析　北中支物資交流關係

第三編　重要品ノ需給狀況

三、調査時期ハ概シテ大東亞戰勃發ヨリ本年八、九月ノ頃迄デアルガ、商品ニ依テ大々異ルシ、昨年七月ノ資金凍結令ノ時期迄遡ツテキルモノモアル

四、而シテ[illegible]一覧ニ[illegible]成セル「華北物價緊急對策要綱」ノ實施ト其ノ反響ニハ華北全[illegible]ニ物價問題ヲ取扱ツテキルガ、本篇

78W11590

ハ青島ト謂フ特別地域ニ於ケル各商品ノ取引状況ヲ中心トシテ、今次物價對策ノ必然性ナリ、其ノ反響ナリガ述ベラレテキル

目次

一、卸賣物價ノ動向
二、主要商品ノ價格竝取引状況
(一) 穀類及蔬菜類
1 麵粉公定相場ト原料小麥相場ノ不均衡ノ發生
2 雜穀類相場昂騰ノ原因
イ 出廻状況
ロ 奥地經濟封鎖ノ功罪
(二) 砂糖
1 砂糖輸入配給機構ノ概觀
2 砂糖市販價格ノ推移
(三) 綿糸布
(四) 落花生
1 落花生相場ノ動向
2 落花生相場變動ノ原因
3 落花生定期市場ノ商況
(五) 建築材料
1 木材

2 藏材

六 其ノ他雑品

1 洋紙

2 染料

3 麻袋

青島ニ於ケル物價動向並主要商品取引状況

一、卸賣物價ノ動向

昭和十六年七月ノ資産凍結令發布以後ノ急激的ナ物價ノ暴騰ハ十二月ノ大東亞戰爭勃發ニ依テ如何ニ推移シタカ、先ヅ之ヲ見ル爲ニ各商品類別指數ノ檢討ヲシタイ

第一表　卸賣物價指數累月比較　　昭和九年一月基準

月次		穀類及蔬菜類	調味及嗜好品	肉類及魚類	其ノ他食料品	衣料類	建築材料	燃料	雜品	總平均
十二月	指數	八二六・八	三五九・四	三七五・七	三〇七・四	五二〇・三	六九九・八	二九八・三	四八九・九	五〇八・九
	對前月比騰落率	(+)四・八	(+)〇・四	(+)七・三	—	(−)〇・六	(−)二・七	(+)三・五	(+)三・五	(+)一・五
一月	指數	八六二・四	三七〇・六	四二〇・七	三〇七・四	五一二・〇	七一〇・八	三〇一・一	五三三・九	五二七・三
	對前月比騰落率	(+)四・三	(+)三・一	(+)一二・〇	—	(−)一・六	(+)一・六	(+)〇・九	(+)九・〇	(+)三・六
二月	指數	九四三・七	三九五・七	五〇一・四	三五一・三	六二八・五	八五七・三	三〇一・三	五五七・三	五八六・四
	對前月比騰落率	(+)九・七	(+)六・八	(+)一九・二	(+)一四・三	(+)二二・八	(+)二〇・六	(+)〇・一	(+)四・四	(+)一一・二

三月 指数	三月 対前月比騰落率	四月 指数	四月 対前月比騰落率	五月 指数	五月 対前月比騰落率	六月 指数	六月 対前月比騰落率
九四四・七	(一)一・一	九四九・八	(+)〇・五	九三三・三	(一)一・七		
四〇四・三	(+)二・三	四〇〇・五	(一)〇・九	四〇七・五	(+)一・七		
四五一・〇	(一)一〇・一	四三九・三	(一)二・六	四三二・八	(一)一・五		
三五一・三	—	三五三・六	(+)〇・七	三四九・七	(一)一・一		
六二四・三	(一)〇・七	六四六・〇	(+)三・五	五九〇・三	(一)八・六		
八八五・六	(+)三・三	九五八・五	(+)八・二	一〇二七・三	(+)七・二		
二九七・〇	(一)一・四	三〇六・〇	(+)三・〇	三一三・六	(+)二・五		
六〇〇・三	(+)七・八	六〇〇・四	—	六一四・二	(+)二・三		
五九二・二	(+)一・〇	六〇五・九	(+)二・三	六一四・九	(+)一・五		

第二表　類別卸賣物價指數對比　其ノ一

類別	一六・一一月指數	一七・五月指數	騰貴率（%）
穀類及蔬菜類	七八九・二	九三三・三	一八%
調味及嗜好品	三五八・一	四〇七・五	一四%
肉類及魚類	三五〇・二	四三二・八	二四%
其ノ他食料品	三〇七・四	三四九・七	一四%
衣料類	五二三・三	五九〇・三	一三%
建築材料	七一九・〇	一〇二七・三	四三%
燃料	二八八・三	三一三・六	九%
纖維品	四七三・四	六一四・二	三〇%
總平均	五〇一・五	六一四・九	四三%

第三表　類別卸賣物價指數對比　其ノ二

類別	一六・五月指數	一六・一一月指數	騰貴率（%）
穀類及蔬菜類	七一一・七	七八九・二	一一%
調味及嗜好品	二七七・〇	三五八・一	二九%
肉類及魚類	二四六・〇	三五〇・二	二%
其ノ他食料品	二八八・九	三〇七・四	六%

衣料類	四六〇・七	五二三・三	一三%
醫藥材料	四一〇・八	七一九・〇	七五%
燃料	二八二・六	二八八・三	二%
雜品	三八六・四	四七三・四	四八%
總平均	三九〇・〇	五〇一・五	二九%

即チ大東亞戰爭勃發直前ノ十一月ヲ境ニ前後半箇年ノ物價昂騰率ヲ比較シテ見ルニ戰後ニ於テ戰前比騰貴率ノ大ナルモノハ「穀類及蔬菜類」「肉類及魚類」並「其ノ他食料品」ノ三ニシテ保合ヲ示セルモノハ「衣料類」其ノ他ノモノハ總テ低下ヲ示シ總指數ニ於テ戰前ノ騰貴率二九%ニ對シ、戰後ハ二三%トナツテ居リ、半年間ノ推移ニ見ル限リ大東亞戰後騰貴率ハ寧ロ戰前ヨリ少イ。尤「衣料類」ノ如キハ後述ノ如ク類中大キナウエイトヲ有スル綿糸布ガ本年五月ニ入リテカラハ定期相場ハ最高價格一本値ニ推移シ相場建タズ五月十三日以降休會トナリ、其ノ間現物市場ハ闇相場デ動イテ居タト謂フ關係カラ五月ニ於ケル「衣料類」ノ指數ハ市場ノ實態トハ甚シク乖離シタモノタル事ハ否メナイ。從ツテ右ノ戰前、戰後ノ物價昂騰度合ノ比較檢討ニ當ツテハ斯カル要素ノ介在ヲ考慮ニ入レル必要ガアル。類別指數ノ動キハ右ノ如クデアルガ、デハ此ノ類別商品群ヲ構成スル各個別商品ノ價格ノ動キハ如何ナル歩ミヲ示シタデアラウカ、以下其ノ檢討ニ移ラウ

二　主要商品ノ價格竝取引狀況

(一) 穀類及蔬菜類

昨年十一月以降本年五月現在ニ至ル期間ニ於ケル雜穀類竝貯菜類ノ卸賣價格ノ推移ハ次ノ如シ

品目	單位	一六年一一月	〃年一二月	一七年一月	〃年二月	〃年三月	〃年四月	〃年五月	一六年一一月對一七年五月現在騰貴率
生寳	一〇〇斤	四一・六〇圓	四一・三〇圓	四六・七五圓	五八・七五圓	六〇・六〇圓	五〇・九〇圓	六一・六〇圓	四八%
小麥		三八・〇〇	四一・七〇	四三・九〇	四四・八〇	四五・〇〇	四二・六〇	四三・〇〇	一三%
粟	〃	二九・二一	三三・六〇	三三・六〇	三四・四四	三五・九二	三六・一九	三五・九〇	二三%
大豆	〃	二五・三二	二五・四二	二四・三四	三三・七二	三五・五二	三四・三二	三五・一六	三九%
高粱	〃	二一・〇九	二二・六六	二三・〇四	二五・六八	二五・六八	二四・三四	二五・五四	二一%
麥粉	二二kg一袋	一九・〇一	二一・六六	二一・四〇	二二・〇五	二一・八七	二二・〇五	二二・〇〇	一五%
野菜(馬鈴薯)	一貫	一・五〇	一・四七	一・八八	一・九〇	二・三六	一・六九	一・六二	八%

即チ大東亞戰爭勃發直前ノ昨年十一月ヲ境トシタ前後半箇年間ノ推

穀類價格ノ推移ヲ比較シテ見ルニ、生産ノ戰後半個年間ノ昂騰率ハ特ニ顯著ニシテ戰前ノ一五％五ニ對シ、戰後四八％ノ暴騰ヲ示現シテ居リ、米、大豆、高粱等ノ雜穀類モ戰後ガ特ニ著シイ。而シテ戰前ニ於テ顯著ナ昂騰歩調ヲ辿ツタトコロノ小麥、麥粉ガ戰後ニ於テ其ノ騰勢ヲ鈍化シタノハ華人主要食糧ノ確保ト配給並價格統制ヲ實施スベク昨年十二月二十日設立サレ、本年二月一日附ニテ、麵粉適正販賣價格ノ設立ヲ實施スルニ至ツタ青島糧食販賣聯合會ノ功績ニ一應歸スベキデアラウ

向右ノ如キ諸雜穀類ノ猛騰ニ對シテハ、四月末華北食糧平衡倉庫青島支部ガ不敢取三井及三菱ヲ動員シテ主要食糧ニ對スル市場操作ニ乘リ出シ價格ノ安定化ニ努メタ事ハ注目スベキコトデアル

次ニ六月以降ノ雜穀類ノ價格變動ノ推移ヲ見ルニ、六月十日激動過中ノ華北物價安定ヲ企圖シタ、華北緊急物價對策要綱ノ發令前後一時反落シタカニ見ヘタ雜穀相場ハ六月下旬頃ヨリジリ高歩調ニ轉ジ、七月ニ入ルト共ニ依然騰勢熾トナリ、ソレニ先行向強調氣配カラ一部華商ノ思惑操作モ手傳ツテ一段ト飛躍的上伸ヲ示現スルニ至ツタ

今當地ニ於ケル六月以降ノ雜穀相場ヲ示セバ次表ノ如クデアル

品名	銘柄	單位	六月一〇日	六月二〇日	六月三〇日	七月五日	七月一〇日	七月一五日	騰貴率
高粱	貨草物	百市斤	二五•〇〇	二六•〇〇	二七•六〇	三〇•五〇	三三•五〇	三七•〇〇	四八•〇
〃	濮州物	〃	二二•〇〇	二二•〇〇	二六•〇〇	二九•〇〇	三二•〇〇	三四•〇〇	五四•五
包米	貨草物	〃	二五•〇〇	二五•〇〇	二五•八〇	二九•〇〇	三三•〇〇	三七•〇〇	四八•〇
大豆	貨草物	〃	二九•〇〇	二九•五〇	三〇•〇〇	三二•五〇	三三•五〇	三五•〇〇	一七•四
〃	天津物	〃	三一•〇〇	三〇•八〇	三一•五〇	三四•〇〇	三五•〇〇	三六•〇〇	一五•四
〃	青口物	〃	三一•〇〇	三〇•五〇	三一•〇〇	三三•〇〇	三四•五〇	三五•五〇	一四•五
綠豆	濟甯物	〃	三五•〇〇	三五•〇〇	三四•五〇	三七•〇〇	四〇•〇〇	四四•五〇	二七•一
〃	濟寧物	〃	三一•五〇	三〇•五〇	三〇•五〇	三四•〇〇	三八•〇〇	四二•〇〇	三五•五
粟	膠州物	〃	三〇•五〇	三〇•二〇	三一•五〇	三五•〇〇	三九•五〇	四七•〇〇	五四•一
〃	貨草物	〃	二八•五〇	二八•五〇	二九•〇〇	三三•〇〇	三八•〇〇	四三•〇〇	五〇•九
黑大豆	青口物	〃	二三•五〇	二四•〇〇	二六•〇〇	二七•五〇	二九•〇〇	二九•〇〇	二三•四
地瓜干	貨草物	〃	二五•〇〇	二五•〇〇	二六•〇〇	二八•〇〇	三一•〇〇	三五•〇〇	四〇•〇
小麥	高密物	百舊斤	四〇•〇〇	四一•〇〇	四〇•〇〇	四四•〇〇	五〇•〇〇	五五•〇〇	三七•五
〃	貨草物	〃	三九•〇〇	三九•〇〇	三九•〇〇	四二•〇〇	四八•〇〇	五〇•〇〇	二八•五
平均騰貴率									三五•五

即チ六月上旬二一圓デアツタ高粱（海州物）ガ七月十五日ニハ三四圓トナリ、六月上旬ニ比シテ一二圓高、粟（滲州物）モ三〇圓五〇錢デアツタノガ四七圓トナリ、六月上旬ニ比シテ一六圓五〇錢高ヲ示シ、何レモ五割以上ノ暴騰ヲ示シテ居ル

之ヲ主ナル雜穀類十四品目ニ就テ其ノ平均騰貴率ヲ見レバ六月上旬ニ比シテ三五%三トナリ、一箇月餘リニ三割五分強ト云フ著シイ昂騰ブリヲ示シテヰル

向八月以降ノ雜穀相場ノ推移ニ關シテハ次表ノ如シ

品名	銘柄	單位	七月二日	七月一〇日	七月二〇日	七月三一日
粟（裸）	FAQ	百市斤（現物）	二二.〇〇圓	四〇.〇〇圓	四三.〇〇	四一.五〇圓
高粱（〃）	〃	〃	二八.〇〇	二三.五〇	三五.〇〇	三四.五〇
大豆（〃）	〃	〃	二一.〇〇	三四.〇〇	三五.〇〇	三五.五〇

品名	銘柄	單位	八月一日	八月一〇日	八月二〇日	八月三一日
粟（裸）	FAQ	百市斤（現物）	四一.五〇	四二.〇〇	四二.〇〇	四一.五〇
高粱（〃）	〃	〃	三四.五〇	三六.五〇	三五.〇〇	三三.〇〇
大豆（〃）	〃	〃	三五.五〇	三六.五〇	三五.〇〇	三四.五〇

品名	銘柄	單位	九月一日	九月一〇日	九月二一日	九月三〇日
米（裸）	FAQ	百市斤（現場）	四一・〇〇圓	五〇・〇〇圓	五九・〇〇圓	五一・五〇圓
高粱（〃）	〃	〃	三二・五〇	三七・五〇	四〇・〇〇	三七・〇〇
大豆（〃）	〃	〃	三四・五〇	七九・〇〇	四四・〇〇	四一・〇〇

即チ右表ニ依レバ七月ニ於テ暴騰ヲ示シタ雜穀相場ハ七月下旬カラ八月ニカケテ幾分騰勢鈍化ヲ示シテ居ルガ、九月ニ入ルヤ再ビ物價ハ騰勢ヲ示現シテヰル事ガ判明スル。而シ九月二日ニハ從來無統制ニ放任サレテ居タ農産物並雜貨類ノ現物取引ノ整備統制ヲ企圖シテ青島現物市場ガ開設サレタノデアルガ、其ノ後ノ現物相場ノ動向ニ徴スル時ハ皮肉ニモ之ニ背反スル現象ヲ見ル。即チ右ノ雜穀類ニ付テトルト、雜穀類ノ生産並出廻荷面ヲ統制スルコトナク、單ニ市場價格ノミヲ抑ヘントシタ矛盾ヲ露呈シテヰル。

1. 麵粉公定相場ト原料ノ小麥相場ノ不均衡ノ發生

資産凍結以降大東亞戰爭勃發直前ニカケテノ麵粉相場ノ未曾有ノ暴騰ニ對處シテ昨年十二月二十日青島糧食販賣聯合會ガ設立サレ越ヘテ本年二月一日附ヲ以テ麵粉適正小賣販賣小賣價格ガ設定サレタ事ハ前述ノ如クニシテ、其ノ後小幅變動ヲ經テ六月以降糧食

販賣聯合會配給價格ハ二一圓五〇錢（綠火磨一一等粉）ノ一本値ニ推移シテ居ルノデアルガ、然ラバ原料小麥相場ハ大東亞戰爭後ニ於ケル雜穀類ノ暴騰過程ニ於テ如何ナル推移ヲ示シタカト云フニ昨年十二月以降本年五月ニ至ル期間ヲトツテ見レバ前表ノ如ク其ノ騰貴率ハ僅少ニシテ製品トシテノ麵粉相場ノ推移ト大體ニ於テ均衡ヲ得テ居リ其ノ間ニ於ケル矛盾ノ發生ハ未ダ見受ケラレナイ。トコロガ六月中旬ヨリ既述ノ如ク雜穀類ガ再ビ一齊ニジリ高歩調ヲ辿ルニ及ンデ、小麥相場モ之ニ追隨シテ活潑ナル上伸ヲ示シタ。即チ本年度華北小麥協會ノ奥地ニ於ケル收買價格ハ大體百斤三五圓見當ト謂ハレテ居タ。然ルニ七、八月頃ニハ奥地ノ雨量不足ニヨリ雜穀ノ作柄不良ガ豫想サレ産地高ヲ示シ、一方農民モ高値ナル雜穀ヲ賣出シ小麥ヲ主食トスルモノガ漸增傾向ヲ示シタ。之ガ爲從來ノ收買價格デハ收買出來ズ收買價格ノ逐次引上ゲヲ餘儀ナクサレ、ソノ收買價格ハ已ニ百斤六〇圓見當ト傳ヘラレルニ至ツタ。之徐州方面ノ原麥收買價格ガ濟南方面ニ比シテ昇急ニ引上ゲラレタコトニ基因シテ北方ノ小麥ガ活潑ニ南下シ蘇淮地區ヘ流出スル傾向ガ顯著トナツタ。コレニ伴ヒ北方ニ於テモ收買價格ノ引上ゲヲ行ハザルヲ得ナクナツタ

トマレ六月中旬以來ノ雜穀類價格ノ再上昇ト共ニ小麥價格モ昂騰歩調ヲ辿リ、六月以降据置ノ糧食販賣聯合會麵粉配給價格二一圓五〇錢トノ間ニ「原料高ノ製品安」トイフ價格ノ不均衡状態ガ著シクナツテ來タ

七月以降ニ於ケル小麥並麵粉相場ノ推移ヲ示セバ左ノ如シ

（七月以前ニ就テハ前表參照）

品名	銘柄	單位	七月一日	七月一五日	七月二〇日	七月三一日
小麥		擔	一 圓	五二.〇〇 圓	五二.〇〇 圓	五二.〇〇 圓
〃		〃	一	四九.〇〇	五〇.〇〇	五〇.〇〇
麥粉	綠火磨	一袋	二一.五〇	二一.五〇	二一.五〇	二一.五〇
	飛鷹	〃	二一.五〇	二一.五〇	二一.五〇	二一.五〇
	遊魚	〃	二〇.五〇	二〇.五〇	二〇.五〇	二〇.五〇
	紅藍鳳凰	〃	一	一	一	一
	綠鳳凰	〃	一	一	一	一九.五〇
	紅〃	〃	一	一	一	一六.五〇

品名	銘柄	單位	八月一日	八月一〇日	八月二〇日	八月三一日	九月一日	九月一〇日	九月二〇日
小麥		擔	五二・〇〇圓	〃	〃	〃	五四・〇〇圓	五五・〇〇圓	五六・〇〇圓
〃		〃	五〇・〇〇	〃	〃	〃	五三・〇〇	五四・五〇	五五・〇〇
麥粉	緑火磨	一袋	二一・五〇	〃	〃	〃	〃	〃	〃
	飛鷹	〃	二一・五〇	〃	〃	〃	〃	〃	〃
	遊魚	〃	二〇・五〇	〃	〃	〃	〃	〃	〃
	紅藍鳳凰	〃	―	―	―	―	―	―	―
	緑鳳凰	〃	一九・五〇	〃	〃	〃	〃	〃	〃
	紅〃	〃	一六・五〇	〃	〃	〃	〃	〃	〃

註　小麥相場ハ小麥協會ノ工場渡ノ値段

小麥相場ハ周知ノ如ク小麥協會ノ收買統制ニ依ツテ或程度ノ價格統制ハ實施サレテ居ルノデアルガ、大東亞戰爭勃發前後ヨリ著シク顯著トナツテ來タ諸雜穀類ノ急激ナル昂騰ニ伴レ價格統制ノ混亂ヲ招來シ收買價格ノ屢次ニ亘ル引上ゲヲ餘儀ナクサレタノデアルガ、收買價格ノ改訂ハ逆ニ雜穀類相場ノ昂騰ヲ刺戟シ、兩者ガ相互ニ惡循環的昂騰ヲ演ジツツ、原料小麥相場ト麵粉相場トノ間ノ價格乖離狀態ハ益擴大サレツツアルノガ最近ノ現狀ト謂ヘヨウ

然ラバ斯カル不均衡狀態ノ表面ハドウデアルカト謂フニ、生産面、即チ製粉工場ニ於ケル採算割レノ現象ハ未ダ顯著ニ表ハレテヰナイガ、生産面ニ於ケル矛盾ニ先行シテ流通面ニ於ケル矛盾ガ看取サレルノデアル

即チ華人側デハ斯カル小麥高ハ今後小麥粉統制價格ノ値上ゲガ必至ナリト豫想シ、買ダメ、賣惜シミ等ガ旺盛トナリ、稍々タル闇取引ノ橫行ヲ現出シ、青島市中ニ於テモ一袋二七、八圓ト謂フ闇價格ヲ示現スルニ至ツタ。而シテ此ノ闇取引ノ盛行ハ糧食販賣聯合會機構ノ脆弱面トシテノ最下部機構即チ第二部會員ヨリ一般消費者ノ手ニ渡ル過程ニ於テ主トシテ發生スルノデアル。此處ニ具體的ナ事例ヲ擧ゲレバ、第二部會員ヨリ適正價格デ買入レタモノヲ袋

ヲ取リ變ヘテ一袋二七、八圓デ轉賣スルトカ、或ハ第二部會員ニシテ例ヘバ一〇〇袋ノ麥粉ノ配給ヲ受ケタ場合五〇袋ヲ適正價格デ一般消費者ニ配給シ、殘リ五〇袋ハ親類知己ニ闇相場デ流スト謂ッタ違反行爲ガ行ハレテ居ル模樣ニシテ、斯クノ如キ闇取引ノ横行ハ、中支粉移入ノ不圓滑ト相俟ッテ、且又全體トシテノ量的不足懸念トカラミ合ッテ一般消費者ヘノ配給ヲ益々窮屈化シテ居リ麵粉配給日ニハ一般華人ガ店頭ニ長蛇ノ列ヲナシテ、セイギイ（一週間分位ノ麵粉ノ配給ヲ受ケテ居ル状景ヲ隨處ニ散見スル

2 雜穀類相場昂騰ノ原因

前述ノ如ク大東亞戰爭勃發前後ヨリ顯著ナル暴騰ヲ示現シ始メタ雜穀類相場ハ本年四月ニ反落ヲ示シタ外ハ强調一途ヲ辿リ六月十日發令サレタ「華北緊急物價對策」發令直後ハ一時ジリ下ゲ歩調ヲ辿ツタガ、中旬カラ下旬ニカケテ一段ト顯著ナル上昇ヲ辿リ、八月幾分鈍化ヲ見セ、九月ニ入ルヤ現物取引所設立以來又々活潑ナ上昇ヲ示シテヰル

然ラバ斯カル雜穀類相場昂騰ノ原因ハ那邊ニアルカノ檢討ヲシテ見ヨウ

斯クノ如キ雜穀類相場激變ノ基調ヲナス次ノモノハ一應時間的ニ區切ツテ考ヘル時資金凍結後ノ一般物價ノ昂騰趨勢ノ影響ヲ受ケテ、漸ク上騰氣配ヲ示現シ始メタコト。而シテ雜穀ガ物價對策トノ關聯ニ於テ見ル場合非統制商品トシテノ性格ヲ有スルガ故ニ、一般物價ノ激動過程ニ於テ右ノ性格ガ尖鋭ニ顯現シタルガ本年初頭以來ノ雜穀類相場ノ極端ナル上昇運動ノ基低ヲ形成スルモノト思惟スル

斯カル基低ノ上ニ

(1) [illegible]頭ノ屢次的强化

(2) 出廻リ減
(3) 舊正實需ヲ控ヘタコト
(4) 本年二月頃特ニ激化スルニ至ツタ上海ニ於ケル舊法幣不安ニ依ル換物人氣ノ釀成、更ニ三月ノ軍票基準ノ變更ニ依ル諸物價ノ昂騰ノ當地方ヘノ波及
(5) 品薄ト手持筋ノ賣惜シミ

之等ノ諸要素ガ加重サレ、雜穀類相場騰貴ノ素因トナツタ

右ニ列擧シタ諸要因ハ大體ニ於テ大東亞戰爭勃發前後ヨリ本年五六月ニカケテ看取サレシ所ノモノデアルガ、六月十日ノ「華北緊急物價對策」發令後ノ雜穀類ノ猛烈ナル昂騰ハ諸雜穀類ガ適正價格設定對象カラ除外サレタコトニ依ルモノデアル

卽チ其ノ間ノ事情ヲ分說スレバ

(1) 經濟封鎖ノ影響ニ依ル輸送ノ困難
(2) 端境期接近ニ依ル奥地ヨリノ出廻リ薄、並之ニ伴フ在庫ノ減少
更ニ第一次適正販賣價格ノ發表ト共ニ、今後農産物特ニ雜穀モ公定價格制ノ實施ヲ見ルニ非ズヤノ說ガ奥地ニ傳ヘラレ奥地ヨリノ出廻リガ一時ニ杜絶シタコト
(3) 專業收買價格ノ引上ゲノ影響

(4) 雨量不足ニ依ル作柄不良豫想

(5) 投機思惑ガ雜穀類ヘ一段ト集中移行シタコト

緊急物價對策ト共ニ第一次適正販賣價格ガ發表サレ、從來華商ガ投機的思惑ノ對象トシテ居タ棉糸布、布帛製品等ノ販賣價格ガ適正化サレタ關係上、華商思惑筋ガ雜穀ニ殺到シ端境接近ニ伴ヒ奧地ヨリノ出廻薄ナルトコロヨリ先行高ヲ豫想シ絶好ノ思惑對象物トナツタ

(6) 仲秋節ヲ控ヘテ實需旺盛ナリシコト

而シ乍ラ一方デハ右ニ列擧セシ如キ諸要因ニ基因スル雜穀類相場ノ上騰趨勢ニ對スル阻止的要因モアルノデアル。夫レハ次ノ如シ

(1) 三月末ニ於テ滿洲ヨリ入荷セシ包米ニ依ル賣操作

(2) 四月末ノ華北食糧平衡倉庫設立以來ノ同倉庫ニ依ル市場操作

(3) 七月十七日ヨリ實施サレシ、磨房同業公會組織部指定ノ市內二十六箇所ノ販賣所ニ於ケル包米粉ノ廉賣配給

而シテ之等ノ騰貴阻止ノ條件ハ前述セシ騰貴釀成原因ニ比シテ力弱ク一般的ニハ上昇必至ノ状態デアル

イ 出廻状況

先ヅ基本的計數ヲ見ルニ―六―海路四月迄、陸路三月迄ノ總計

ニ於テ、本年ハ五五、〇〇〇噸ニシテ之ヲ前年同期ニ比シ五六一四一噸ノ激減、而シテ減少ノ著シキモノハ落花生、葉煙草、豆類ニシテ、昨年同期ニ比シ約三分ノ一ノ出廻リニ過ギズ他ハ小麥ノ微增ヲ除キ何レモ減少ヲ示シテ居ル。更ニ出廻リ徑路ニ就テ見ルニ海路ハ四〇%、陸路ハ五二%ノ減少比率ヲ示シ就中鐵道搬入ノ減少傾向ガ注目サレル

斯カル出廻減少ノ原因ト目サルベキモノハ

(1)經濟封鎖ニ依ル出廻リ減退

(2)雜穀類ノ奥地滯溜傾向ノ增大化

(3)京津地方ヘノ流出顯著

等ニシテ特ニ(3)ニ就テハ華北市場助成會社經營ニ依ル天津、唐山現物取引所機構ノ影響ハ免レザル所ト謂ヒ得ヤウ

尚右ノ外奥地舊法幣流通地區ニ於ケル舊法幣高ニ依ル雜穀類ノ奥地流出故收買ニ當ル當地糧棧筋ノ金融逼迫等ガ考ヘラレル

四 奥地經濟封鎖ノ功罪

大東亞戰爭勃發直後ノ十二月二十日以降對敵經濟封鎖强化故青島地區内部ノ物資交流ノ圓滑ヲ期スル爲青島舊市城ヨリ夫レ以トノ地域ニ次ノ物資ヲ搬出セントスルニハ青島物資對策委員會

ノ許可ヲ要スル事トナツタ

尚左ノ物資中日本軍軍用品及携帯者ノ自家用品ト認メラレルモノハ除外サレテ居リ、亦要許可物資モ今後必要ニ應ジテ増減サレル事ニナツテ居ル

(一)兵器、(二)彈藥類、(三)セルロイド並同製品、(四)機械類、機器類及金屬製品、(五)自動車、自轉車並同部分品、(六)鑛油、(七)石炭(八)皮革及同製品、(九)生ゴム及同製品、(十)棉花、綿糸布其ノ他纖維製品、(十一)セメント、(十二)木材、(十三)鹽、(十四)燐寸、(十五)醫療藥品、(十六)工業藥品、(十七)米、(十八)小麥及小麥粉、(十九)雜穀類(二十)砂糖、(二十一)紙、(二十二)蠟燭

尚此ノ外十六年十二月二十五日附佈告トシテ(一)捲煙草、(二)植物油、(三)麥酒及清涼飲料水肩張瓶ガ搬出要許可物資トナツテ居ル

此ノ物資搬出取締令ノ實施ト其ノ後ノ運用效果ガ以後ニ於ケル青島地區經濟變動ノ有力ナル要因ヲ形成スルニ至ツタ

元來之迄青島港ニ輸移入サレタ商品ノ六割乃至七割ハ沿線奧地ニ流出シ、間接的ニ匪區地帶ノ經濟力ヲ培養シテ來タ、

青島港ト奧地ヲ繋グ物資ノ輸送ルートヲ遮斷シ、匪區地帶ノ經濟封鎖ヲ行フ事ハ事變遂行上已ムヲ得ナイコトデハアルガ、現

在ノ北支ニ於テハ奥地ト占領地帶トヲ經濟的ニ切リ離シテ了ヘバ農產物、特ニ特產物、棉花、葉煙草其ノ他重要物資ノ出廻リガ著シク減退スル事ハ不可避デアル

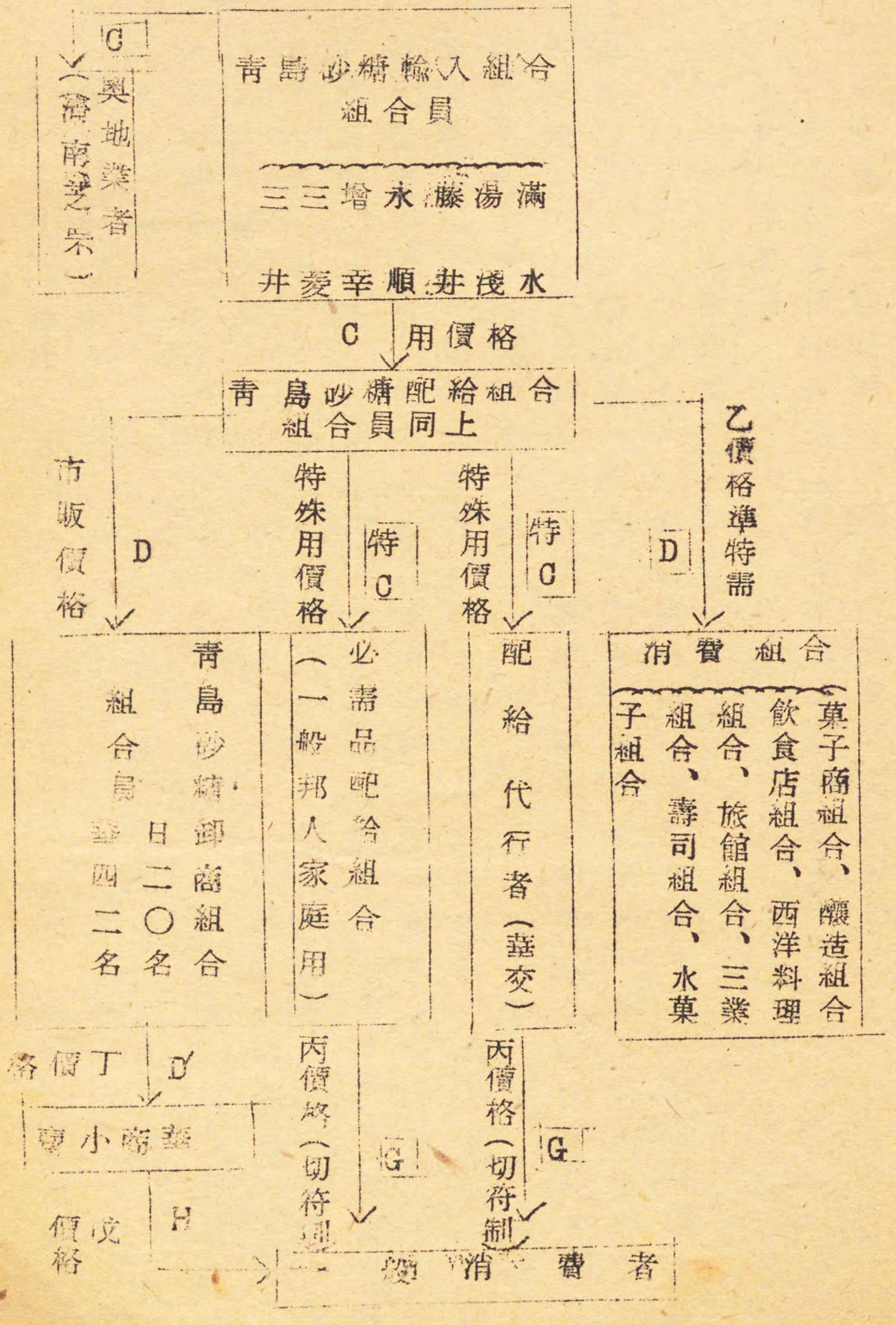
而シテ經濟封鎖ニ依リ奥地必需物資ノ入手難ト經濟封鎖ノ網ノ目ヲクグッテ出ル物資ノ高價格ニ基ク奥地生產物ノ產地高値出廻減ニ依リ流通過程ニ於テ、思惑ガ起ルノハ當然デアリ、他方其ノ大部分ヲ奥地需要ニ依存スル所ノ物資、例ヘバ綿糸布、砂糖等ハ奥地トノ交流遮斷ニ依リ普通ノ條件ノ下ニ於テハ滯貨現象ノ顯現カラ價格ノ下落傾向ヲ辿ル、ガ常道デアル

(二)砂糖

1　砂糖輸入配給機構ノ概観

次ニ砂糖輸入配給機構ノ概観ヲシテミヨウ

現行砂糖輸入配給機構ヲ圖式化スレバ左ノ如シ



青島砂糖輸入組合
組合員
三井 三菱 増幸 永順 藤井 湯浅 満水
C
奥地業者（濟南芝罘）
C 用價格
青島砂糖配給組合
組合員同上
市販價格
D
特殊用價格
特C
特殊用價格
特C
乙價格準特需
D
青島砂糖卸商組合
組合員
日二〇名
華四二名
必需品配給組合
（一般邦人家庭用）
配給代行者（華交）
消費組合
菓子商組合、釀造組合、飲食店組合、西洋料理組合、旅館組合、三業組合、壽司組合、水菓子組合
丁價格
D'
華商小賣
小賣價格
H
丙價格（切符制）
G
丙價格（切符制）
G
一般消費者

註 C＝第一次卸賣價格（輸移入業者ノ販賣價格）
D＝第二次卸賣價格（卸賣業者ノ販賣價格）
G＝小賣價格
H＝華商小賣價格

尚青島砂糖卸商組合ハ昨年十二月二日日華商ヲ一丸トシテ結成サレタルモノニシテ、砂糖ノ市價調整、需給ノ圓滑化ヲ圖ルヲ以テ其ノ目的トシテ居ル如クデアル

此ノ卸商組合ノ結成ニ依リ、華人商人ニ對シテモ、輸入組合カラ卸商組合迄ノ段階ニ於ケル統制ガ一應行ハレル事ニナッタ譯デアルガ下部機構、殊ニ華人小賣商カラ一般華人消費者ニツナガル面ガ亂脈デアル事、今一ツハ砂糖ガ所謂（アルフアー）調整料徴收物資デアリ其ノ料率ノ算定ハ華商間ニ於イテ成立スル自由市場價格ヲ基準トシテ逆算サレルモノデアルカラ價格統制ト言フ面カラ見レバ頗ル矛盾ノ多イ事ト言ヘヤウ

2 砂糖市販價格ノ推移

昨年十一月以降本年五月ニ至ル半箇年間ノ砂糖卸賣價格ノ動向ヲ觀ヘバ次ノ如シ

品名	單位	銘柄	昭十六年十一月	一六・一二	一七・一	一七・二	一七・三	一七・四	一七・五
砂糖	三五斤	精白糖	二六五・九五	二六八・六五	二九一・八七	三五四・〇〇	三三六・〇〇	三二四・〇〇	三〇八・九九

(圓錢)

一六・一二月對比	一七・〇六
一七・五月現在騰貴率 一六%	二九四・三〇

即チ本年一月、二月ハ舊正實需ヲ控ヘ、入荷寥々タルニ加ヘ、在庫減ノ爲ニ相當顯著ナ騰勢ヲ示シテ居ルガ、四月、五月ト軟調氣配ヲ示シ、六月ハ物價對策發表ニ依リ更ニ漸落歩調ヲ續ケタ

更ニ此ノ半箇年間ノ砂糖價格ノ騰貴率ヲ其ノ以前半箇月間、即チ昨年五月現在價格對比、昨年十一月騰貴率一一七%ト較ベル時ハ甚ダシキ純化ヲ示現シテ居ル。是ハ昨年十二月二十日ヨリ實施强化サレタ對奥地經濟封鎖ニヨリ奥地トノ自由ナル聯關ヲ切斷サレ、青島都市經濟内部ニ於ケル需給關係ノ緩慢化ニ之ヲ求ムベキデ，アラウ

更ニ七月以降ノ砂糖價格ノ推移ニ就テハ別表ノ如シ

品名	銘柄	納單位	七・二（月日）	七・一〇	七・二〇	七・三一	八・一（月日）	八・一〇	八・二〇	八・三一	九・一	九・一〇	九・二〇	九・三〇
砂糖	精白糖J級	ピクル	二一〇・〇〇圓	二一四・〇〇	二一八・〇〇	二一八・〇〇	二一八・〇〇	二一八・〇〇	二一八・〇〇	二一八・〇〇	二一八・〇〇	二一八・〇〇	二一八・〇〇	二一八・〇〇
〃	白双二四號	〃	一六四・五〇	一六六・五〇	一六六・五〇	一六六・五〇	一六六・五〇	一六八・〇〇	一六六・五〇	一六六・五〇	一六六・五〇	一六六・五〇	一六六・五〇	一六六・五〇

卽チ右ニ依レバ六月カラノ砂糖相場軟調ノ後ヲ受ケテ七月ヨリ八月初旬ニカケ稍々昂騰氣配ヲ示シ、其ノ後ハ一本値ニ推移シテ居ル

只右表ニ於テ注意ヲ要スルハ本年九月三日青島現物市場ノ開設以來取引市場ニ於ケル登錄相場ト實際ノ取引相場トノ乖離關係ノ發生デアル

卽チプレミアムガツイテ實際ノ取引ハ實行サレテ居ル事ニヨリ、右表ニ於テ九月以降ノ相場ハ現實相場ヲ表示シテ居ナイ。一說ニ依レバ精白糖ノ場合ニ於テ九月以降ノ實際取引相場ハ二六〇圓カラ二七〇圓トナツテ居ル由デアル

(三) 綿糸布

昨年十一月以降ニ於ケル綿糸布卸賣相場ノ動向ヲ示セバ左ノ如シ

	綿糸（銀月二〇番手、單位梱）		綿布（龍門、細布、單位反）	
	價格 圓	對前月比騰貴率	價格 圓	對前月比騰貴率
十六年十一月	一、五六〇・〇〇	五%	四四・九四	三%
十二月	一、五四二・〇〇	（一%）	四四・三八	（一%）
十七年 一月	一、四五七・〇〇	（六%）	四四・一三	（一%）
二月	一、四七九・〇〇	二%	四五・〇八	二%
三月	一、四五〇・六〇	（三%）	四四・九三	—
四月	一、五五八・四〇	七%	四六・八四	四%
五月	—		四九・二九	三%

卽チ昨年六月以降大東亞戰爭勃發前後ニ至ル逐月騰貴率ニ比シ幾分鈍化傾向ヲ示シテ居ルトハイヘ尙堅實ナ足取リヲ示シツツ推移シタ綿糸布相場ハ五月ニ入ルヤ俄然一大異變ニ逢着スルニ至ツタ卽チ綿糸布定期市場ハ五月ニ入ルヤ遂ニ最高基準値段ニ上リ先行低落ノ見込ミナク全クノ一本値ニ終始シタ。其ノ間現物市場ニハ

闇取引ガ行ハレルニ至リ爲ニ五月十三日總解合ヲ敢行シ、爾來連日休市スルノ止ムナキニ至ツタ。而シテ其ノ間六月十日ノ緊急物價對策ノ發令ニ伴ヒ公定價格ノ設定ヲ見ルト共ニ、日華商社ノ在庫調査ノ強行ト相俟ツテ一時六〇圓臺ヲ浮動シテ居タ綿布相場モ急落軟調ヲ辿リ適正價格ニ近ヅキ自肅商状ヲ示シツツアツタガ、雜穀市場ノ昂勢ニツレテ華商側ノ一部ニハ當局ノ統制強化策ヲ樂觀シ、且又、協會ノ未發足トイフ條件モアリ、再ビ闇相場ハ急騰ヲ續ケ七月上旬ニハ闇相場ハ六十八圓ノ未曾有ノ高値ヲ示現スルニ至ツタ

今七月二十七日以降ノ闇取引状況ヲ示セバ左ノ通リデアル

月日	花鳥	双飛龍	十三封度	綿糸
七・二七	五八・〇〇圓	五七・〇〇圓	ー	ー
三〇	〃 〃	〃	ー	ー
三一	〃	〃	ー	ー
八・一	〃	〃	ー	ー
三	〃	〃	ー	ー
四	〃	〃	ー	ー

八・五	〃	〃	一	一
六	〃	〃	一	一
七	〃	〃	四六・〇〇	二、〇〇〇・〇〇
八	五九・〇〇	五八・〇〇	四六・〇〇	二、〇〇〇・〇〇
一〇	六〇・〇〇	五九・〇〇	〃	〃
一一	五九・〇〇	五八・〇〇	〃	〃
一二	〃	〃	〃	〃
一三	五八・〇〇	五七・〇〇	〃	〃
一四	〃	〃	四二・〇〇	〃
一五	〃	〃	四三・〇〇	〃
一七	六〇・〇〇	五九・〇〇	〃	〃
一八	六一・〇〇	六〇・〇〇	〃	〃
一九	六三・〇〇	六二・〇〇	〃	〃
二〇	〃	〃	〃	〃
二一	六二・〇〇	六一・〇〇	〃	〃
二二	六三・〇〇	六二・〇〇	〃	〃
二四	六三・五〇	六二・五〇	四六・〇〇	〃
[illegible]	〃	〃	〃	〃

八・二六	六三・〇〇	六二・〇〇	〃	〃
二七	六三・二〇	六二・〇〇	〃	〃
適正價格	四六・〇〇	四六・〇〇	四四・一〇	一、四三〇・〇〇

右表ニ示ス通リ六十五、六圓ヲ保合ツテ強調ヲ續ケテ居タ商相場モ、協會ノ運營開始ト共ニ一路軟調ヲ辿リツツアリ、殊ニ双龍十三封度モノハ第二回ノ配給後ハ四十二圓丁度ト購入組合配給價格ヲ示現スルニ至ツタ。其ノ他ノ細布モ協會發足前ニ比スレバ何レモ五、六圓安ニアルガ依然トシテ適正價格ニ比スレバ五、六圓高ヲ唱ヘ堅調ニアル。之ハ第一部會員ヨリ加工工場へ流サレルモノ多ク細布ノ生地モノノ配給ガ微量ナル事ニ因シテ居ルト謂ハレテ居ル

而シテ最近ノ狀勢トシテハ奥地搬出制限ノ影響ヲ受ケ、モノニヨツテハ適正價格ヲ下廻ルモノサヘ生ジ、青島都市内部ニ於ケルストツクノ一部累積化現象ガ看取サレルニ至ツテ居ル事ハ注目ヲ要スル

尚奥地搬出制限ハ勿論最近ノ事象デハナク、其ノ間經緯ノ變化ハアツテモ昨年十二月以降實施ヲ見テ居ル問題デアリソレハ必然的

ニ商品流通面ノ縮少ヲ結果シ先物取引ノ嚴禁ト相俟ツテ、相場昂騰阻止要因デアルニモ拘ラズ、本年初頭以來最近ニ至ル實際ノ推移ハ鈍調デハアルガ、大勢的ニハ依然堅調ヲ持シテ居ル。此ノ事ハ綿糸布統制機構即チ纖維組合機構（現在ハ纖維協會ニ改組）ノ脆弱ヲ衝イテ換物ノ好箇ノ對象物デアル綿糸布ニ對シ、投機思惑ガ如何ニ集中發揮サレタカヲ窺フニ足ルモノト言ヒ得ヤウ

四 落花生

1 落花生相場ノ動向

昨年十一月以降ニ於ケル生油、生米卸賣相場ノ推移ハ次ノ如シ

年　月	生油（一〇〇斤）價格	生油（一〇〇斤）對前月比騰落率	生米（一〇〇斤）價格	生米（一〇〇斤）對前月比騰落率
一六・一一	七七円・八三	二%	四一円・六〇	二%
一二	七八・四八	一%	四一・二〇	－
一七・一	八九・二五	一四%	四六・七五	一三%
二	一〇四・〇〇	一七%	五八・七五	二六%
三	一〇五・四〇	一%	六〇・六〇	三%
四	一〇九・二〇	四%	五七・九〇	（四%）
五	一二二・六〇	一二%	六一・六〇	六%
六	一一九・五八	（二%）	〃	－

（註）括弧内ハ低下率

更ニ六月以降ニ於ケル落花生相場ノ推移ヲ別表ニヨリ窺ヘバ次ノ如シ

銘柄	単位	六・一 邦商	六・一 華商	七・二 邦商	七・二 華商	七・一〇 邦商	七・一〇 華商
落花生（條） FAQ	白老斤（地場）	六五・〇〇	六五・〇〇	六一・〇〇	六一・〇〇	六三・〇〇	六三・〇〇
生油 ″	″	一二五・〇〇	一二五・〇〇	一一三・〇〇	一一三・〇〇	一一八・〇〇	一一八・〇〇

銘柄	七・二〇 邦商	七・二〇 華商	七・三一 邦商	七・三一 華商	八・一 邦商	八・一 華商	八・一〇 邦商	八・一〇 華商
落花生（條）	六四・〇〇	六四・〇〇	六三・〇〇	六三・〇〇	六四・〇〇	六四・〇〇	六五・〇〇	六五・〇〇
生油	一二〇・〇〇	一二〇・〇〇	一二一・〇〇	一二一・〇〇	一二三・〇〇	一二三・〇〇	一二五・〇〇	一二五・〇〇

銘柄	八・二〇 邦商	八・二〇 華商	八・三一 邦商	八・三一 華商	九・一 邦商	九・一 華商	九・一〇 邦商	九・一〇 華商
落花生（條）	七〇・〇〇	七〇・〇〇	六八・〇〇	六八・〇〇	｜	｜	｜	｜
生油	一三〇・〇〇	一三〇・〇〇	一三五・〇〇	一三五・〇〇	一三五・〇〇	一三五・〇〇	一三六・〇〇	一三六・〇〇

月日	九・二一	
	邦商	華商
	七〇・〇〇	七〇・〇〇
	一三六・〇〇	一三六・〇〇

即チ右ニ表ニ依リ大東亜戦勃發以来五、六月ニ至ル間ノ生酒、生米ノ騰貴率ハ猛烈ニシテ昨年十一月ニ較ベテ本年五月ノ相場ハ生酒ニ於テ五割八分、生米ニ於テ四割八分ノ大暴騰ヲ示現シテ居ル四ニ昨年五月對比昨年十一月現在生酒、生米ノ騰貴率ハ夫々二割一分、一割五分トナツテ居リ、時期的ニ見テ大東亜戦後半箇年間ノ落化生相場ノ昂騰率ハ其ノ以前半箇年間ノソレニ較ベテ著シク大巾ノ騰貴率ヲ示シテ居ル事ガ判明スル

而シテ六月迄續騰ヲ示シタ落花生相場ハ七月ニ入リテ反落傾向ヲ示シ、次イデ八月中旬ニカケテ騰勢ヲ示シテ居ルガ同月下旬以降ハ寧ロ軟調氣配ヲ示シテ居ル事ガ分ル。要スルニ大勢的ニ見テ、七月以降ノ相場ハ落付氣味デアルト謂ヘヨウ

2 落化生相場變動ノ原因

斯クノ如ク大東亜戦争勃發後ニ見ラレタ相場暴騰ノ諸要因ニ[illegible]料

スレバ次ノ如クデアル

イ　治安關係

ロ　物資搬出制限

昨年十二月二十日以降實施ヲ見ルニ至ツタ奥地經濟封鎖ニヨリ此ノ治安關係トモ結ビツキ落花生ノ出廻リノ激減ガ市價ノ昂騰ヲ刺戟シタ

ハ　奥地デ石油代用トシテ燈油ニ使用サレル事

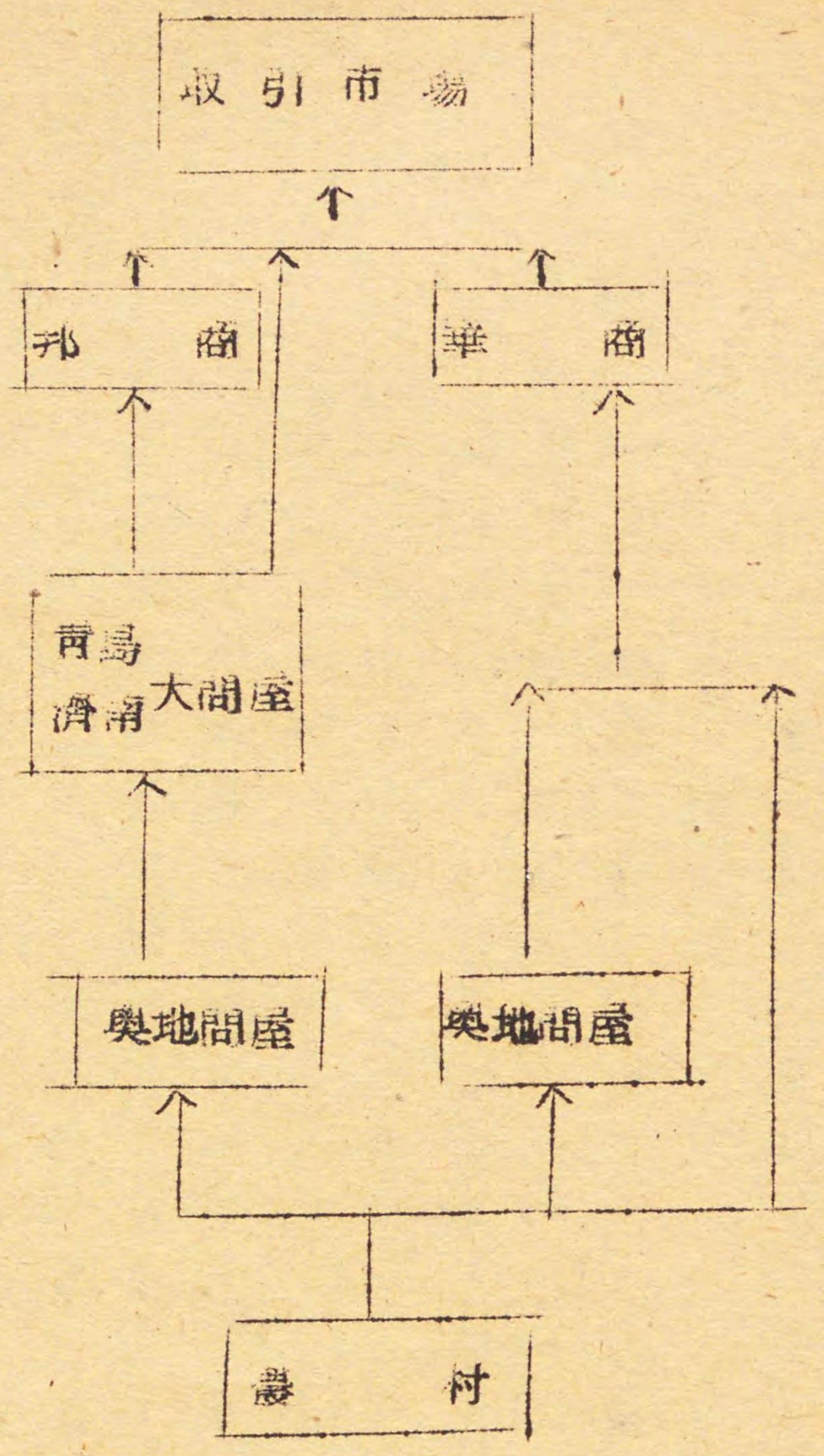
ニ　天津市場ノ動向ニ依ル影響

大東亞戰爭後ノ現象トシテ青島市場ハ一時的ニモセヨ對中支移出關係ノ稀薄化カラ上海市場ノ如何ヨリモ天津市場ノ動向如何ニ影響サレル所大デアル。殊ニ落花生ニ付イテハ昨年十月二十五日天津ニ取引所ガ設置セラレタ結果同所上場ノ生油、生米相場ノ動キガ鋭敏ニ影響スルヤウニナツタ。殊ニ青島取引所ノ仕手關係ノ資本系統ガ天津資本ノ支配下ニアル事ハ青島取引所ノ相場ガ完全ニ天津相場ニ對シ從屬關係ニ立タザルヲ得ナイ理由デアラウ

ホ　收買機構ノ脆弱性

今落花生等ノ生産地ヨリ市場ニ至ル過程ヲ圖示スレバ左ノ如ク

デアル



右ノ如ク出廻リ過程ニ於ケル實權ハ華人側ニアルト謂ツテモ過言デハナク、實際買付ニ當ツテモ品質ノ識別、量器、評價其ノ他ノ商慣習ハ各地各樣ニシテ相當ノ經驗ヲ要シ、又治安等ノ關係上邦人ニハ難事トサレテ居ル。一方累次ノ經濟封鎖ニヨリ物資ノ流入ヲ極度ニ制限サレ、生産者農民ハ搬出農産物ニ對スル裏付物資ニ缺乏シテ居ルト謂ツタ農村現時ノ環境下ニ於テハ、

前述ノ如ク農村部面ニ對スル把握ガ未ダ行ハレテ居ナイ現状ニアツテハ、農産物ノ出廻リ減、惹イテハソレガ昂騰ヲ馴致スルニ至ルハ理ノ當然デアラウ

ヘ　大東亜戦争勃發後組番トナツタ雑穀類價格ノ暴騰ニ生米現物相場ガ追随シテ昂騰シタルコト

ト　生油、生米ノ共榮圏内輸移出ガ比較的順調ニ推移シタコト

即チ昨年六月ノ獨ソ戦ノ勃發、更ニ七月ノ資産凍結以來海外販路喪失ノ結果ハ國際商品トシテノ生油ニ甚大ナル影響ヲ與ヘ、其ノ輸移出數量ハ激減ノ一途ヲ辿リツツモ共榮圏内輸移出ガ比較的活况ヲ呈シテ居ル事ガ看取サレル。殊ニ本年ニ入リテカラ三月、四月、五月ノ輸移出數量ハ顯著ナ伸ビ方ヲ示シテ居ル。此ノ共榮圏内輸移出ノ相對的活潑化ガ次ニ述ベル機械油房筋ノ昨年カラノ操業休止ニヨル生産面ノ縮少ト相俟ツテ落花生相場堅調ノ有力ナル支柱ヲ形成スルモノト謂ヒ得ル

チ　油房筋ノ操業停止乃至ハ操短

青島生油業ハ一昨年度ノ好況ヲ頂點トシテ國際情勢ノ混亂ト之ニ伴フ販路ノ縮少ニヨツテ昨年下半期以來漸次操短状態ニ入リ本年ニ至ツテカラハ特ニ甚シク地場生油業ハ現在殆ド操業休止

ノ狀態ニアル

其ノ原因トシテハ、治安關係、奥地經濟封鎖、其ノ他ニヨル落化生ノ出廻リ減モ勿論一因ヲナスモノデアルガ、最大原因トシテハ原料高、油安ニヨル採算ノ不引合ト對第三國向販路ノ喪失ニヨル粕ノ處分難ガ擧ゲラレル

即チ現在ノ市中相場ハ生實百斤六一圓ニ對シテ生油一二〇圓見當デアルカラ今工賃及諸經費ヲ百斤當二圓五〇ト見タ場合、出油率四〇%、出粕率五五%（缺斤＝五斤）トシテノ原價計算ハ總原價六三．五〇圓ヨリ粕（百斤＝二〇圓）五五%ノ價格一一．〇〇圓ヲ引イタ五二．五〇圓ガ即チ、油四〇%ニ付テノ價格デアル。從テ之ヲ百斤ニ換算スレバ一三一圓二五トナリ、大體生油百斤當一一圓餘ノ採算割レトナルノデアル

次ニ粕ノ處分ニ付テハ從來米國並日本向トシテ多量ニ輸出サレテ來タガ現地物價ノ昂騰、昨夏ノ對日資産凍結令ノ發動ヲ契機トシテ杜絶狀態ニ陷リ、加ヘテ近時發民ノ食料トシテノ奥地向粕ノ輸送モ匪區地帶封鎖ノ完璧ヲ期スル建前カラ去ル二月ヨリ搬出ガ許可制トナツタタメ其ノ打撃モ大キク粕ノ需要ハ減少迺途ヲ辿ツタ

斯クテ現状ニ於テハ假令操業可能ノ状態ニ至ツタトシテモ柏ノ處分ノ點ニ困難ガアル譯デ、搾油過程ニ於テ五五%ヲ占メメル柏ノ處分方法コソハ斯業ニトツテノ重大問題ト謂ハネバナラヌ

而シテ最近ニ於テ、柏ノ對日輸出ノ可能性ガ生ジ、目下商工省方面ト折衝中デアル由デアリ、且亦奧地向食糧トシテ搬出ヲ考慮中デアルカラ柏ノ處分方法ニモ一纔ノ命脈ガ見ラレ始メタト謂ハレル

而シテ斯クノ如キ好轉關係ヲ反映シテカ最近生粕相場ノ上昇ガ見ラレル

昨年十一月以降ノ生柏相場ノ動キ次ノ如シ

月別	生柏（百斤）	對前月比騰貴率
一六年一一月	一五・六二圓	（一五%）
一二	一九・四九	二五%
一七年一月	二一・三二	九%
二	二三・六二	一一%
三	二七・七二	一七%
四	二五・五四	（八%）

一七・五	二二・三四	（一三%）
六	一八・八四	（一六%）

（註）括弧内ハ低下率

即チ大東亞戦爭勃發前ハ反落傾向ヲ辿ツタ生粕相場ハ十二月ノ暴騰ノ後續騰ヲ示シタガ四月以降ハ生油、生米ノ昂騰ニモ拘ラズ慘落ヲ示現シテ居ル事ガ看取サレル

次イデ七月以降ニ於ケル生粕相場ノ推移ヲ別表ニヨリ示セバ次ノ如シ

品名	單位	七月二日	七月一〇日	七月二〇日	七月三一日	八月一〇日	八月二〇日	八月三一日	九月九日	九月二二日	九月三〇日	一〇月一四日
生粕	百斤	一九・六〇圓	二一・八〇圓	二三・〇〇圓	二二・二〇圓	二一・五〇圓	二三・〇〇圓	二二・七〇圓	二五・〇〇圓	二九・〇〇圓	二七・〇〇圓	三四・五〇圓

即チ七月ニ入リテヨリ昂騰歩調ヲ辿リ、下旬ヨリ八月ニカケテ

鈍調氣配ヲ示シ、九月、十月ニカケテハ雜穀類ノ新タナル奔騰段階突入ト共ニ猛烈ナ騰貴ヲ示現シテ居ル

3

落花生定期市場ノ商況

前述セル如ク本年初頭以來暴騰ニ暴騰ヲ重ネタ落花生相場ヲ定期市場ニ就テ見ル時幾多波瀾ノ跡ガ見受ケラレル。即チ前述現物相場ノ推移ト同樣大東亞戰爭勃發後昂騰ヲ續ケテ居ル事ハ定期市場ノ場合ニ於テモ勿論同樣ニシテ、先行不安ニ脅ヘ取引所ノ證據金ノ大巾引上ゲ等諸種ノ抑制措置ニモ拘ラズ、品不足ニ人氣尚強ク昂騰趨勢ニ終始シタ。而シテ市場ハ遂ニ某月ニ亘ル品薄ニヨリ受渡難ヲ慮リ生油ハ五月七日着金ノ受授ヲ完了シテ總解合ヲ敢行、生米ハ十二日總解合ヲ行ツタ。而シテ生米ノ方ハ十四日ヨリ新規取引ヲ開市シテ居リ生油ハ十八日ヨリ開市シテ居ル。然シ乍ラ此處ニ注意ヲ要スルノハ生油ノ場合ニ於テハ再開後ノ取引ニ於テハ現物ノ極度ノ拂底ニ基因シ現物ノ受渡シヲ必要トシナイ事ニナツタニ反シ、生米ノ方ハ現物ガボツボツ乍ラ存在スル事ニヨツテ現物ノ受渡シノ必要ナ事ハ從前通リト言フ變則的ナ基調ノ下ニ再開ヲ見タ事デアル。

而シテ再開後ノ生油取引ニ於テ現物ノ受渡シヲ必要トシナイト言ツタ變則的取引ヲ行フニ至ツタ理由トシテハ五月七日ノ解合ノ結果證據金ノ返還カラ、多額ノ遊資ガ市場ニ流出シ、物價ノ昂騰ヲ

刺戟スル恐レガアルト言フノデ、興亜院、領事館側ノ慫慂ニ依リ斯カル變則的取引ヲ再開スルニ至ツタ爲デアラウ。因ミニ再開後ノ取引ノ證據金ハ從前ノ七、〇〇〇圓カラ二、〇〇〇圓ニ引下ゲラレテ居ル。

斯クテソレ以來生油ノ定期相場ト現物相場ノ乖離關係ハ益々著シクナツタ。元來現物相場ト定期相場ノ相互關係ハ例ヘバ現物デ買ツテ定期デ賣リ放ツトカ、或ハ逆ノ場合ノ如キ操作ニヨツテ密接ニツナガツテ居ルモノニシテ、現物相場ト定期相場ノ推移ハ同一歩調ノ上ニ立ツノガ常道デアル。然ルニ生油ノ先物取引ノ基調ガ前述ノ如ク變態化スル事ニヨリ定期ト現物トノツナガリハ切斷サレルニ至リ、次ノ如ク定期相場ハ漸次下落傾向ヲ辿ルニ至ツタ。

青島取引所定期相場

(1) 落花生

日次 ＼ 限月	五月限 前場寄付	五月限 後場大引	五月限 高値	五月限 安値	五月限 公定	六月限 前場寄付	六月限 後場大引	六月限 高値	六月限 安値	六月限 公定
五月一日	一一七・三〇	一一七・三〇	一一七・三〇	一一七・三〇	一一七・三〇	一一七・四〇	一一七・四〇	一一七・四〇	一一七・四〇	一一七・四〇
二日	一一七・〇〇	一一七・五〇	一一七・五〇	一一六・七〇	一一七・〇五	一一七・〇〇	一一七・四〇	一一七・四〇	一一六・八〇	一一七・一〇
三日										
四日	一一七・五〇	一一七・五〇	一一七・五〇	一一七・五〇	一一七・五〇	一一七・四〇	一一七・四〇	一一七・四〇	一一七・四〇	一一七・四〇
五日	相場暴騰ニ付休市									
六日	一一六・五〇	一一六・五〇	一一六・五〇	一一六・五〇	一一六・五〇	一一六・五五	一一六・五五	一一六・五五	一一六・五五	一一六・五五
七日	總解合ニ依リ休市									
	十七日迄休市續ク									

(1) 落花生（續）

限月／日次	六月限 前場寄付	六月限 後場大引	六月限 高値	六月限 安値	六月限 公定	七月限 前場寄付	七月限 後場大引	七月限 高値	七月限 安値	七月限 公定
五月八日	一三二・〇〇	一三一・八〇	一三三・〇〇	一二九・七〇	一三一・四五	出來不申				
二〇日	一三〇・三〇	一二七・六〇	一三〇・六〇	一二七・五〇	一二八・四〇					
二五日	一二七・二〇	一二七・七〇	一二八・〇〇	一二五・八〇	一二六・八〇					
三〇日	一二七・〇〇	一二七・〇〇	一二七・二〇	一二六・八〇	一二七・〇〇					
六月五日	一二四・三〇	一二三・七〇	一二四・三〇	一二三・八〇	一二三・四五	一二四・八〇	一二四・五〇	一二四・八〇	一二四・〇〇	一二四・三〇
一〇日	一一八・〇〇	一一九・三〇	一一九・三〇	一一七・九〇	一一八・一〇	一一八・五〇	一一九・九〇	一一九・九〇	一一八・五〇	一一九・三〇
一五日	一一一・七〇	一一三・六〇	一一三・六〇	一一一・〇〇	一一二・四五	一一三・〇〇	一一四・五〇	一一五・〇〇	一一二・〇〇	一一三・六〇

(1) 落花生（續）

日次 ＼ 限月	七月限 前場寄付	七月限 後場大引	七月限 高値	七月限 安値	七月限 公定	八月限 前場寄付	八月限 後場大引	八月限 高値	八月限 安値	八月限 公定
六月二〇日	一一六・三〇	一一五・三〇	一一六・三〇	一一四・九〇	一一五・四五					
二五日	一一一・〇〇	一一一・五〇	一一一・九〇	一〇九・五〇	一一〇・七〇	一一一・六〇	一一三・五〇	一一三・七〇	一一一・三〇	一一三・〇〇
三〇日	一〇五・三〇	一〇三・五〇	一〇六・二〇	一〇二・四〇	一〇四・六〇	一〇五・三〇	一〇三・五〇	一〇五・三〇	一〇三・五〇	一〇四・五〇
七月六日	一〇一・五〇	一〇一・七〇	一〇二・三〇	一〇一・六〇	一〇一・六〇	一〇二・四〇	一〇三・八〇	一〇三・四〇	一〇一・六〇	一〇二・五〇
一〇日	一〇四・五〇	一〇四・四〇	一〇五・四〇	一〇三・五〇	一〇四・五五	一〇五・四〇	一〇五・四〇	一〇六・三〇	一〇四・五〇	一〇五・四五
一五日	一〇六・九〇	一〇七・五〇	一〇七・九〇	一〇六・三〇	一〇七・〇五	一〇七・九〇	一〇八・六〇	一〇九・〇〇	一〇七・三〇	一〇八・二五

(1) 落花生（續）

限月	八月限					九月限				
日次	前場寄付	後場大引	高値	安値	公定	前場寄付	後場大引	高値	安値	公定
七月三〇日	一〇三.九〇	一〇三.三〇	一〇四.九〇	一〇三.三〇	一〇四.〇五					
二五日	九七.三〇	九八.四〇	九八.八〇	九六.三〇	九七.一五	九八.〇〇	九九.三〇	九九.六〇	九七.三〇	九八.〇五
三一日	九四.九〇	九七.六〇	九八.〇〇	九四.七〇	九六.三五	九五.九〇	九八.四〇	九八.八〇	九五.八〇	九七.三〇
八月一日	九八.〇〇	九七.六〇	九八.八〇	九六.七〇	九七.八五	九九.〇〇	九八.六〇	九九.八〇	九七.八〇	九九.〇〇
一〇日	九四.〇〇	九五.四〇	九四.一五	九二.八〇	九五.四五	九五.〇〇	九四.〇〇	九五.一〇	九三.七〇	九四.三〇
二〇日						九七.五〇	九七.四〇	九八.〇〇	九六.八〇	九七.四〇
三一日						九二.四〇	九一.三〇	九三.九〇	九一.〇〇	九一.八五

(2) 落花生實

日次	五月限 前場寄付	五月限 後場大引	五月限 高値	五月限 安値	五月限 公定	六月限 前場寄付	六月限 後場大引	六月限 高値	六月限 安値	六月限 公定
五月一日	五九・三〇	五九・三〇	五九・三〇	五九・三〇	五九・三〇					
二日	五九・三〇	五九・八〇	五九・八〇	五九・一〇	五九・四〇					
三日										
四日	五九・八〇	五九・八〇	五九・八〇	五九・八〇	五九・八〇					
五日	相場暴騰ニ付休市									
六日	六〇・三〇	五九・〇〇	六〇・四〇	五八・五〇	五九・五〇	六〇・八〇	五九・四〇	六〇・八〇	五九・五〇	六〇・三五
一一日	六〇・五〇	六〇・八五	六〇・九〇	六〇・五〇	六〇・八五					
一二日	總解合ニ依リ休市									
一三日	六〇・〇〇	六〇・〇〇	六〇・〇〇	六〇・〇〇	六〇・〇〇	六〇・八〇	六〇・八〇	六〇・八〇	六〇・八〇	六〇・八〇

(2) 落花生賣（一俵）

日次＼限月	六月限 前場寄付	六月限 後場大引	六月限 高値	六月限 安値	六月限 公定	七月限 前場寄付	七月限 後場大引	七月限 高値	七月限 安値	七月限 公定
五月五日	六二・四〇	六三・四五	六三・七〇	六二・二〇	六三・〇〇	出來不申				
二〇日	六六・三〇	六五・七〇	六六・四〇	六五・三〇	六五・七五					
二五日	六六・四〇	六七・〇〇	六七・一〇	六五・八〇	六六・三五					
三〇日	六六・三〇	六六・〇五	六六・四〇	六六・〇〇	六六・一五					
六月一日	六五・四〇	六五・八〇	六五・九〇	六五・二〇	六五・五五					
五日	六四・三〇	六四・〇〇	六四・三〇	六三・三五	六三・九五	六五・〇〇	六三・〇〇	六五・〇〇	六四・三〇	六五・〇〇
一〇日	五九・〇〇	五九・六〇	五九・九〇	五九・〇〇	五九・六〇	五九・八〇	六一・〇〇	六一・〇〇	五九・六〇	六〇・五〇

(2) 落花生賣（續）

日次	七月限 前場寄付	七月限 後場大引	七月限 高値	七月限 安値	七月限 公定	八月限 前場寄付	八月限 後場大引	八月限 高値	八月限 安値	八月限 公定
六月一五日	五八・九〇	五九・五〇	五九・八〇	五七・九〇	五八・九五	出	來不申			
二〇日	六一・四〇	六一・三〇	六一・四〇	六〇・八〇	六一・一五	〃	〃			
二五日	六一・三〇	六二・六〇	六三・〇〇	六一・三〇	六二・〇〇	〃	〃			
三〇日	六一・三〇	六〇・八〇	六一・三〇	六〇・五〇	六〇・八〇	〃	〃			
七月二日	六一・七〇	六一・九〇	六二・三五	六一・三〇	六一・八〇					
六日	六二・三〇	六二・一五	六二・四〇	六一・七五	六二・一〇	六二・八〇	六二・七〇	六三・〇〇	六二・七〇	六二・八〇
一〇日	六二・六〇	六二・九〇	六三・一〇	六二・六〇	六二・六〇	六三・四〇	六三・三〇	六三・五〇	六三・〇〇	六三・二〇

(2) 落花生實（續）

限月 / 日次	八月限					九月限				
	前場寄付	後場大引	高値	安値	公定	前場寄付	後場大引	高値	安値	公定
七月一五日	六四・六〇	六四・九〇	六五・四〇	六四・六〇	六四・九〇					
二〇日	六四・〇〇	六三・八〇	六四・五〇	六三・八〇	六四・一〇					
二五日	六二・六〇	六三・二〇	六三・三〇	六二・六〇	六二・九五					
三一日	六三・三〇	六四・九五	六五・〇〇	六三・三〇	六四・四〇					
八月一日	六五・四〇	六五・九〇	六六・〇〇	六四・九〇	六五・五〇					
一〇日	六六・八〇	六八・二〇	六八・四〇	六六・八〇	六七・六五					

卽チ生米相場ノ逐月堅調ヲ持續シ居ルニ反シ。生油相場ハ五月十八日ノ取引再開後漸落傾向ヲ辿リ、七月二十三日遂ニ安値ハ百圓ノ大關門ヲ割ルニ至ツタ。而シテ八月十九日ノ物産委員會ニ於テ九月十日ヨリ一月限上場決定ト共ニ現物ノ受渡シ必要トナルニ及ンデ、生油定期相場ハ幾分朗トナリ爾後上昇傾向ヲ辿リ、最近ハ一一〇圓臺ニ立チ直ツテ居ル

(四)建築材料

1 木材

木材類價格昨年十一月以降ノ推移次ノ如シ

月別	米松丸太(一〇〇〇B/M) 價格	米松丸太 對前月比騰貴率	白松板類(才) 價格	白松板類 對前月比騰貴率	ベニヤ板(一枚) 價格	ベニヤ板 對前月比騰貴率
一六年一一月	六五〇・〇〇	−	・七三	−	二・二五	二%
一二	六五〇・〇〇	−	・七四	一%	二・三六	五%
一七、一	六五〇・〇〇	−	・七五	一%	二・四三	三%
二	七〇〇・〇〇	八%	・八一	八%	二・四五	一%
三	七五〇・〇〇	七%	・八一	−	二・四九	二%
四	七五〇・〇〇	−	・八一	−	二・四九	−
五	七五〇・〇〇	−	・八一	−	二・四九	−
六	七五〇・〇〇	−	・八一	−	二・四九	−
七	七五〇・〇〇	−	・八一	−	二・二五	(二〇%)

(註)括弧内ハ低下率

木材ノ配給ハ周知ノ如ク、華北一圓一本建トナツテ居リ、北京ニ本部ヲ有スル華北木材輸入配給組合ノ下部機構トシテ、北京、天津、青島ノ三地區輸入配給組合ヲ配シ、各消費者ニ繋ガル事ニナツテ居リ、一應機構ノ整備ト共ニ價格統制モ圓滑ニ進展シテ居ルモノト謂ヘヨウ

即チ前表ニ見ル如ク木材價格ノ動キハ統制値ノ變更ニ依リ微々タル變動ヲ示シタニ止リ、一般物價ノ激動期ニアツテヨク價格ノ安定ヲ示シタモノト謂ヒ得ル

而シテ前表ニ於ケル價格ハ木材配給組合ノ統制値ヲ示シタモノニシテ、此ノ機構圏外ノモノトシテ華商手持ストツク等ノ相場ハ最近ノ如キ極度ノ逼迫期ニ於テハ相當ナ高値ヲ唱ヘテ居ル事ハ容易ニ想像サレル

アウトサイダートシテハ現地材關係ト外國商社ニ依ル輸移入ガ考ヘラレルガ、膠濟沿線產現地材モ何等カノ形デ此ノ機構ニ包含サルル如クデアル。亦外國商社關係トシテハ例ノ上海ニ本據ヲ有ツサンスーン財閥傘下ノ祥泰木行有限公司ガ資產凍結前ニハ當地ニ於テマニラ材ノ輸移入ニ相當活動シテキタ如クデアルガ、其ノ後ハ活動ヲ停止シテ居リ、大東亞戰爭ト共ニ終焉ヲ告ゲテキルカ

前述ノストック部分ヲ考慮ノ外ニ置ク時ハ木材ノ入手經路トシテハ此ノ機構外ニハナイ關係上此ノ木材配給機構ハ條件的ニハ惠マレテ居リ其ノ配給統制、價格操作モ一應功ヲ奏シテ居ルモノト謂ヘル

尚七月ヨリ木材ノ品薄カラ青島木材商組合員ヨリ需要家ヘノ販賣ハ興亞院發行ノ切付ニ依ル事トナリ自由取引ハ禁止サレルニ至ツタ

2 鐵材

鐵材類價格昨年十一月以降ノ變動左ノ如シ

月別	丸鐵（銘柄 四分 單位 一〇〇瓩） 價格	丸鐵 前月比騰貴率	洋釘（銘柄 神戸吋組合 單立 一樽） 價格	洋釘 前月比騰貴率	亞鉛引平板（銘柄 #三〇×三×六 單位 一枚） 價格	亞鉛引平板 前月比騰貴率
一六年一一月	二九四.〇〇	二八%	一四八.〇〇	四三%	二四.六〇	九%
一二月	二三〇.〇〇	（二二%）	一八〇.〇〇	二二%	二五.〇〇	二%
一七年一月	二三三.〇〇	一%	一八〇.〇〇	一	二五.三三	一%
二月	二四八.〇〇	六%	二二〇.〇〇	二二%	二八.〇〇	一一%
三月	二六〇.〇〇	五%	二四〇.〇〇	九%	二八.〇〇	一
四月	二六〇.〇〇	一	三二一.六七	三四%	三〇.〇〇	七%

五	三二〇・〇〇	二三%	三四〇・〇〇	六%	三一・〇〇	三%
六	二九五・〇〇	（八%）	三三五・〇〇	（四%）	三三・〇〇	六%
七	二八五・〇〇	（三%）	三二〇・〇〇	（三%）	三三・〇〇	ー

（註）括弧内ハ低下率

鐵材類ノ配給統制機構トシテハ現在對日輸入配給機構デアル金屬製品輸入配給組合ガ活動シテ居ルノデアルガ、日本戰時經ノ進展強化ニツレ、鐵材類ノ一般民需向配給ハ極度ニ壓縮サレ、必然的ニ圓ブロツク輸出ニ於テモ極端ナル制限ハ不可避デアル。從テ當輸入配給組合ノ入荷鐵材ノ配給分野ハ極メテ狹少トナラザルヲ得ズ主トシテ開發關係ヘノ配給デ手一杯ト考ヘラレ、一般市販ニ廻ル部分ハ皆無ト謂ツテヨイ

從テ一般市價ヲ構成スルモノハ在來ノストツク部分（中支ヨリノ移入ハ上海側ノ搬出制限ニ依リ最近ハ入荷ナシ）デアリ何等直接的價格統制ノ手ノ打タレテキナイ自由市場價格ト謂ヘル

右表ニ於ケル價格ハ此ノ自由市場ニ於テ構成サレル一般市價ノ變動ヲ示セルモノニシテ、從テ其ノ變動ハ極メテ顯著デアル

内 其ノ他雑品
洋紙、染料、麻袋價格ノ動キハ左ノ如シ

月別	洋紙（銘柄 模造紙三千物 單位 一封度）價格	洋紙 前月比騰貴率	染料（銘柄 硫化青 單位 一〇〇斤）價格	染料 前月比騰貴率	麻袋（銘柄 背筋新 單位 枚）價格	麻袋 前月比騰貴率
一六・一一	圓 一・一一	一	圓 一三九・〇〇	三%	圓 五・一六	一五%
一二	一・二〇	九%	一五一・〇〇	九%	五・一五	一
一七・一	一・三〇	八%	二二〇・〇〇	四六%	五・七〇	一一%
二	一・三五	四%	二二〇・〇〇	一	五・九〇	三%
三	一・三五	一	二二〇・〇〇	一	七・五〇	二七%
四	一・三五	一	二五〇・〇〇	一四%	七・三〇	（三%）
五	一・三三	（二%）	二五〇・〇〇	一	七・八四	七%
六	一・二五	（六%）	二五〇・〇〇	一	八・四二	七%
七	一・二五	一	二五〇・〇〇	一	九・二三	一〇%

（註）括弧内ハ低下率

1 洋紙

華北ノ和洋紙生産ハ未ダ見ルベキモノナク、青島地區ニモ興亞製紙株式會社ガアルガ、創立後日未ダ淺ク（昭和十六年十一月末設立）生産ニモ配給ニモ特ニ擧ゲルベキモノハナイ。從テ需要ノ殆ド全部ガ輸移入ニ依存シテ居ルノミデアルガ輸移入ハ華北紙統制協議會ノ下ニ三地區（京津、山東、蒙疆）輸入組合ガ夫々協議會ノ指令ニ従テ日本、關東州等ヨリ輸入シテ居ル

而シテ山東紙輸入組合ノ入荷品ハ青島、芝罘、濟南ノ各地區配給組合ニ配給サレ、配給組合ハ更ニ各地區紙卸商組合又ハ特需（軍官需特殊會社）及準特需（煙草會社、紡績會社）等ニ配給シテ居ル

印刷業者ハ曾テハ直輸入シテ居タモノモアリ、又輸入組合員カラ直接購入シテ居タモノモアツタガ、今後ハ凡テ小賣商ト同様卸商組合ヨリ配給サレル事ニナツテ居ル

右ノ如ク日本、關東州、朝鮮等カラノ輸入紙ハ紙統制協議會機構ヲ通ジテ、配給統制、價格統制ハ完璧ニ近キモノト謂ヘル所ニシテ、附表ニ見ル如ク其ノ價格變動ハ極メテ微々タルモノデアル事ガ判明スル

對日期待ノ斷減傾向カラ品不足ノ組現ガ見ラレ始メ、最近ニ於テ

モ、相場堅調氣配ヲハラミツツモ、其ノ取締リ嚴重ヲ極メ統制価ニ於テ寧ロ下落傾向ヲスラ示シテ居ル
然シ此ノ統制機構外ノ紙、特ニ上海ヨリノ移入品タル燒紙、印刷用紙等ハ其ノ時々ノ状勢ヲ反映シテ、投機思惑ノ好個ノ對象物トナリ、相當ナ高値ヲ呼ンデ居ル如クニシテ、斯カル華商筋ノ自由市場價格ト協定價格トハ勿論大キナ差ガアル

2 染料

青島染料界ノ現状ヲ一瞥スルニ、先ヅ青島地區染料工場トシテハ維新化學工業、中國顔料竝鳳凰化學工廠ノ三工場ガ存シ、前二者ハ硫化ブラツクノ生産ニ主トシテ當リ、後者ハ人造藍インヂゴ生産ニ主力ヲ傾注シテ居ルノデアルガ
最近ノ現状トシテハ原料竝副原料デアル藥品ノ入手難カラ各社共五〇%程度ノ操短ヲ行ヒ、竝鳳凰ノ如キハ最近休業状態トナツテ居ル。即チ硫化ブラツク製造用ノ藥品デアル硝酸、硫酸、クロールベンゾール、芒硝、硫黄、インヂゴー製造用藥品タルアニリン、ボルマリン、青化曹達、金屬性ナトリウム、酸性亞硫酸曹達、苛性曹達、苛性加里等、是等原料藥品ノ大部分ハ軍需用竝重工業方面ニ使用サレル爲ニ内地ヨリノ對北支輸出ハ漸次萎縮化シテ居リ

亦從來部分的ニハ對上海移入ニ仰イデ居タモノモ最近ハ殆ド杜絶狀態ニシテ、原料方面カラノ制約條件ノ累積ニヨリ、染料ノ現地生産面ハ極度ニ減少化シテ居ル現狀デアル

一万染料ノ輸入面ヲ見ルニ日本ヨリハ華人向染料タル硫化ブラツク及人造藍ヲ主トシ其ノ外所謂色物トシテグリーン、ブルー、ナフトール等ガ年約四百萬斤餘輸入サレ、内天津地區約七割、青島地區約三割ノ割合デ割當テラレテ居タノデアルガ、此ノ對日輸入物ハ漸次壓縮サレテ居リ、今後尚一層ノ窮屈化ハ必至ト見テヨイ亦從前ハ外商方面殊ニ德孚洋行（獨逸系イーゲー染料會社代理店）ニ於テ獨逸ヨリノ直輸入染料ガ取扱ハレテ居タノデアルガ昨夏來ノ國際情勢ノ激變ニヨルシベリヤルートノ杜絶ト共ニ事實上輸入不可能トナリ、最近デハストツクモ出盡シテ居ルモノト見ラレル斯クノ如キ供給面ノ壓縮ハ配給機構ノ未整備ト結ビツキ自由市場價格ガ生ズルワケデアリ非統制商品トシテ大東亞戰爭後ハ對日輸入期待薄ノ發生ト共ニ新タナル高騰ヲ示シ、右表ノ如ク本年五月現在ニ於テ昨年十一月ニ較ベテ即チ半箇年間ニ實ニ八割ノ昂騰率ヲ示現シテ居ル

而シテ本年四月以降・業者ノ申合セトシテ最高販賣價格ヲ硫化青

BBR二五〇。〇〇圓、同XC二六五。〇〇圓トシテ居ルモ、累月ニ亘ル品不足ヲ反映シ、一部華商側ノ闇相場ハ三六〇圓ヲ唱ヘテ居ルガ如クデアル

3 麻袋

青島地區ニ於テ需要セラレル麻袋ハ香港麻袋、上海麻袋ノ呼稱ノ示ス如ク主トシテ上海亦ハ香港製品ニシテ、此ノ外天津ノ底羊毛緑製造工場ノ製品モアルガ同製品ハ月産僅ニ約五、六萬枚ニ過ギズ且原料ガ支那麻デアル爲品質極メテ粗惡デ始ド問題トサレテ居ナカツタ

上海物、香港物ノ當地輸移入割合ハ大體香港物七ニ對シ、上海物三デアツタガ最近ハ始ド香港物ノミトナリ上海物ハ極ク少量ニ過ギナカツタ。之ハ上海ニハジヤーデン・マデソン、上海東亞製麻ノ二工場ガアリ、前者ハ約三百萬枚、後者ハ約百八十萬枚ノ生産ヲ行ツテ居タノデアルガ、前者ハ歐州戰爭後其ノ製品ノ大部分ヲ英本國向輸出スルヤウニナリ、後者亦昨年八月火災ノ爲、原料ヲ燒失セル事ニ因ルモノデアル。而シテ香港物モ資産凍結後ハ漸次入手困難トナリ、當地麻袋ストツクノ減少ト共ニ資産凍結後ハ麻袋相場ハ逐月暴騰シタノデアルガ大東亞戰爭直後カラ本年初頭ニ

カクテハ皇軍戦果ノ擴大サレルニ從ヒ香港、上海等ノ在貨ノ入荷
ガ可能ト謂フ見透シノ下ニ若干軟調ヲ示スニ至ツタ
然ルニ南方カラノ入荷期待ハ四月ニ入リテモ見込立タズ加之中南
支在貨ハ搬出禁止デ動カナイト謂ツタ關係カラ當地麻袋市場ハ漸
次在貨薄トナリ、之ニ伴ツテ麻袋相場ハ右表ノ如ク逐月續騰ヲ演
ジ・現在ノ如キ稀有ノ高値ヲ示現スルニ至ツタ

池H82